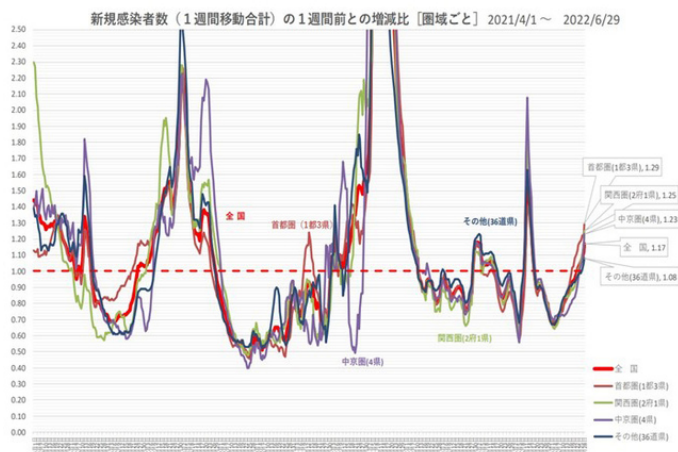


*** 今日の健康 (7月) ***

< オミクロン株 BA.5 >

減少傾向がしばらく続いていた新型コロナウイルス感染症の新規感染者が、再び全国的に増加傾向をみせています。厚生労働省に対策を助言する専門家組織は6月30日の会合で、オミクロン株の新たな派生型「BA.5」が増加要因になる可能性があるとして注意を促しています。また、現在の増加傾向が感染拡大の「第7波」の兆しなのか注視する必要があります。



新規感染者の増加は世界的な傾向で、世界保健機関 (WHO) も警戒しており、表は新規感染者の対前週増減比 (厚生労働省提供) です。

厚生労働省の資料によると、6月29日までの1週間に確認された全国の感染者は人口10万人当たり約92人。前週の1.17倍で、約1カ月半ぶりにほとんどの年代で増加に転じています。新規感染者が前週より増えたのは29都府県。東京都は前週比1.37倍で、大都市でおおむね増加しています。

東京都の6月30日モニタリング会議では、新規感染者の数が6月29日までの1週間平均で前週比約138%となり、2週続けて増加したことから、独自の警戒レベルの判断基準に照らし、レベルを1段階引き上げ、上から2番目の「感染拡大で警戒が必要」としました。会議メンバーの専門家は「十分に下がりきらないまま増加に転じた。感染が再拡大している」などとコメントしています。

オミクロン株は今年に入りBA.1から派生型のBA.2に置き換わり、新たにBA.4やBA.5が増えています。BA.5の詳細はまだ分かっていないが、米国などではワクチン接種や過去の感染で得られた免疫をすり抜けやすく、感染力もBA.2より強い可能性が指摘されています。米国内では6月下旬の時点で、BA.5とBA.4が新規感染者の原因ウイルスの半数以上に達しています。

WHOによると、オミクロン株の6月13~19日の分析対象のうちBA.2は25%で、BA.5は43%に達し、BA.4も12%で、WHOはこの割合は対象地域に偏りがあり世界全体の状況を反していないとしつつ、BA.5の急速な置き換わりを警戒しています。

今後、日本で5系統が国内の主流になり感染者の増加要因になる可能性があります。

前澤クリニック 内科・小児科 0422-30-2861

天文台通り もみじ山公園バス停裏